

Costume and Textile

No. 6

服飾文化学会会報

2003年10月



第4回夏期セミナー 秋田県立博物館前にて

第4回 総会・大会の報告

服飾文化学会第4回総会・大会は2003年5月31日(土)、6月1日(日)の2日間にわたり、東京家政学院短期大学で開催された。東京家政学院は、創立者大江スミが「家政研究所」として設立して以来、本年は80周年にあたり、このような時期に開催校として重鎮を担うことは大変意義深いことである。

当日は、台風の余波による断続的に強い雨の降るあいにくの天候にもかかわらず、80余名の出席者を得た。発表会場では質疑応答が活発に行われ、盛会のうちに終わることができた。

1) 口頭発表

第1部5件、第2部3件、合計8件の研究発表が行われた。19世紀を中心とする服飾について、



大会口頭発表

文献を丹念に調査検討し考察した研究が比較的多かった。また、小袖の形状を決定するのは裂地幅と構成要素の配置法によるとして、近世初期の遺品小袖に注目した発表、また、現地調査による研究、デザイナーの文化的アイデンティティ等の考察、教育用に自動作図機能の拡張をはかったCADについての報告もなされ、本学会員の研究の一端が披露され、熱のこもった発表に時間を忘れるほどであった。

2) 作品展示発表

素材に加工を加えた布地の衣服や紬糸を使用したニット服、コンピュータを駆使した織物、新旧柄浴衣の比較と着装、異素材を用いたウェディングドレス、明治時代の復元ドレス等8件の発表があった。件数は少なめながら、マネキンやボディを使って衣服表現したものが多く見受けられ、優れた手法がうかがえる作品ばかりであった。



作品展示発表の様子

★ 5月31日 (土)

口頭発表 第1部	
14:00	・座長 泉山 幸代 A-1 北海道衣生活文化の確立と変遷 -札幌市白石地区を中心に- 和洋女子大学 諏訪原貴子
	・座長 佐藤 泰子 A-2 「川路聖謨文書」から見る幕末の服飾 千葉県立佐倉東高等学校 伊藤 瑞香

	A-3 近世初期の小袖の形状と着装姿 -17世紀の女子小袖のかたち- 早見芸術学園 葉山美知子
	A-4 人形芸術・様式の展開とその周辺 (II) 山野美容芸術短期大学 澤村 英子

	・座長 石山 正泰
	A-5 インドネシア・スンバ島・イカットの現在 桜美林大学 渡辺くにえ
15:30	
15:45	特別講演「情景としてのインドネシア染織」 染織作家・染織工房イカット主宰 渡辺万知子
16:45	
17:00	
17:30	総会
17:50	
19:00	懇親会 (アルカディア市ヶ谷)

★ 6月1日 (日)

口頭発表 第2部	
9:00	・座長 常見美紀子 B-1 ジャンニ・ヴェルサーチの表現についての一考察 -ジェンダー的視点から- 実践女子大学大学院 ○森下 則子 実践女子大学 鍛島 康子
	・座長 鍛島 康子 B-2 クリストファー・ドレッサーの見た明治の染織 共立女子大学 小林 彩子
10:00	B-3 アパレルCADの自動作図機能を用いた教材開発とその評価 和洋女子大学 山本 高美

作品展示発表 ショートスピーチ・質疑応答	
10:10	・座長 高野 美栄 T-1 重なるの構成 -素材の表情を引き出す衣服- 成安造形大学 森下あおい
	T-2 最新鋭コンピュータージャガード手織機による -緻密な柄織- 女子美術大学 佐久間恭子
	T-3 織服地 -赤と紺- 相模女子大学 池田 節子

11:00

T-4	新旧柄反物による浴衣の製作と着装 東京家政学院大学 松本 幸子
・座長 池田 節子	
T-5	スラッシュキルトでワンピース 相模女子大学短期大学部 田中 百子
T-6	紙を用いたカラーウェディングドレス 共立女子大学大学院 ○金 美淑 共立女子大学 伊藤 紀之
T-7	大島紬で編むニット作品の表現法 和洋女子大学 多田 洋子
T-8	ファンシーボールドレスの復元 ー明治 20 年代ー 大妻女子大学 ○大網美代子 石井とめ子

3) 特別講演

「情景としてのインドネシア染織」をテーマに渡辺万知子氏（染織作家）の講演が行われた。インドネシア染織の代表とされる絣織物のイカット、ろうけつ染のバティックを中心に、各島々、各部族における生活の中での染織品の位置付け、伝統的な色使いや模様の意味、衣服としての着用状況などが克明に解説された。代表的なものでは、トラジャでは家の壁に豊穡や子孫の繁栄を祈る模様を描き、葬儀では同じ模様の絣布で室内を覆い、家

の前には天国、祖先への階段となる幡を立てる。ジョグジャカルタやソロでは、ガルーダの翼や須弥山などを描いた伝統的な茶系統の図柄、チルボンやプカロンガンでは、花鳥模様や中国模様などの華やかでカラフルなバティックが作られている。講演では渡辺講師が現地で収集された貴重な資料や、数十枚のスライドが披露され、臨場感溢れる講演会となった。

4) 総会

岡田宣世庶務担当理事の司会で、平成 15 年度の総会が開催された。石山彰会長の挨拶、開催校の学長挨拶は所用のため出席できず代読され、その後、議事に入った。平成 14 年度の事業報告、会計報告があり、次いで平成 15 年度の事業計画案、予算案が審議され了承を得た。

5) 懇親会

会場を「アルカディア市ヶ谷」に移し、懇親会が開かれた。参加者は 45 名。石山彰会長の挨拶の後、伊藤紀之副会長の乾杯で開会、バイキング式で歓談しながらの食事となった。和やかな雰囲気の中で新入会員の方々が紹介され、その後、石井とめ子副会長の閉会の挨拶によって解散となった。



特別講演の渡辺万知子氏

6) 見学会

予想を上回る 45 名の参加を得て、「東京国立博物館」の見学会が行われた。平成館小講堂において教育普及課長 井上洋一氏より年間事業内容や計画案などの説明があり、つぎに保存修復課長 神庭信幸氏より環境・修理・保存に関わる厳しい現状の話をうかがい、修理室の見学となった。その後場所を移し、東洋館では本学会理事の小笠原

小枝氏より『東南アジアの染織』（インドネシア 5 点、スマトラ 4 点、ジャワ 12 点）、本館では共立女子大学の長崎巖氏より『日本近世の染織』（江戸・桃山 30 点）について丁寧な解説を受け、大変実り多い半日であった。

以上の予定を滞りなく消化し、定時に散会となった。（総会・大会実行委員長 高野 美栄）

第 4 回夏期セミナーを終えて

第 4 回 夏期セミナーは、8 月 5 日（火）から 7 日（木）の 3 日間、秋田で行われた。第 1 日目は、参加者 38 名が秋田駅に集合し、貸切バスで秋田県立博物館に向かった。県立博物館は 30 年ぶりの大改装中で展示は見られなかったが、秋田県立博物館主任宮本康男学芸主事の講演『秋田と染織技術』は、秋田市民も参加して、小講堂は満席だった。

北林強副館長の挨拶に続き、石井とめ子本学会副会長が開会の辞を述べ、宮本主事の講演が始まった。四方の壁に秋田県内で収集した衣類を展

示し、テーブルの上に織布などを置いて、実物を示しながら秋田の織と染の歴史・種類などを説明した。

古くから栽培されていた麻は庶民の衣料として織られたが、大麻取締法で栽培できなくなった。綿は江戸時代になり、横手で織られるようになった（横手木綿）。秋田では綿花ができないので、山形などで綿花を買って綿織物にした。絹織物も江戸時代中ごろからで、ハマナスの根を染料とする秋田独特の八丈織が織られた（秋田八丈）。



講演 宮本康男氏



秋田の染織に囲まれて



講演 鎌田幸男氏

講堂にはゼンマイ織、白鳥織、紫根染、茜染、浅舞絞、横手絞など秋田でも珍しくなった織や染色の衣類が展示され、解説があった。当博物館は参加体験型の博物館をモットーとしていて、宮本康男氏が中心となって秋田県各地で体験教室を開いているという。市民参加者の中に自ら染めた着物を着た女性がいたので、体験教室の成果を披露してもらった。

夕方は料亭「濱乃家」で懇親会が開かれた。伊藤紀之副会長の挨拶と乾杯の後、秋田の郷土料理に舌鼓を打ちながら歓談の一時を過ごした。「濱乃

家」は大正7年（1918）創業。和洋折衷の文化財級の建物で、懇親会をした事が翌日秋田経済法科大学の先生から羨ましがられた。

第2日目は、秋田経済法科大学短期大学部の講堂で講演会が行われた。同大学の桜田紀元教学部長の歓迎の辞があった後、同大学鎌田幸男教授（民俗学）がビデオを供覧して『小正月の訪問者・ナマハゲ—迎える側の心境—』の講演をした。ナマハゲが生まれた男鹿の風土・中国の武帝伝説、今でも盛んに行われている若美町、天王町、男鹿市はナマハゲの文化圏を形成しているが、ナマハゲ

の面相は各地で違うことなどを話した。

午後は、秋田県総合食品研究所の菅原久春上席研究員による『秋田の漬物の特色について』の講演が行われた。秋田は米と米麴の文化で、糠味噌は秋田の文化ではなかったが、今では味噌漬、醤油漬、燻製品(いぶりがっこ)など種類も多い。秋田では漬物のことを「がっこ(雅香・合香)」といい、「がっこ茶」といって茶菓子代わりに漬物が出たという。

夕方は「第一会館」で秋田名物“きりたんぼ”を食べてから、山王通りで行われる“竿燈まつり”の見学に行った。6日は竿燈まつり最終日で、50余チームが230ほどの竿燈をかかげて妙技を競った。竿燈に囲まれ、高さ12メートル、46個の提灯をつけ重さ50kgの竿燈を、手や肩・腰で支える妙技が目の前で披露されると、テレビで観るのとは違い、気分も高揚し、祭りに参加してるという実感を十分に味わうことができた。

第3日目午前は秋田駅前にある銀線細工の竹谷本店を見学した。江戸時代から200年の伝統をもつ銀線細工を作る店は、秋田市内に数軒あったが、今は竹谷本店だけという。二階の工房で10人ぐらいずつ入り、銀線細工の実演を見せてもらった。細い純銀の線をより合わせ、手先と簡単な工具だけでアクセサリや置物を作っていた。

1時間半程見学してからバスで角館に向い、平



秋田竿燈

福百穂の名をとった「百穂苑」で名物の栗おこわと塩魚汁(しょつつる)貝焼などを味わった。午後は平福美術館や武家屋敷など街を自由に散策した。3時30分頃駐車場に集合し、バスで角館駅まで行き、角館駅で解散した。角館の街をゆっくり散策したい人は 昼食後、自由行動をし、時間の許す限り“みちのくの小京都”を味わってもらった。(夏期セミナー担当 蔵方 宏昌)

第4回夏期セミナープログラム

日 時		内 容
8 月 5 日 (火)	12:00	秋田駅集合(集合場所 駅東口の階段を降りてバス停留所)
	12:30	秋田駅出発(貸切バス)
	13:00~13:30	受付(秋田県立博物館)
	13:30~13:35	開会の挨拶
	13:40~16:00	講演・展示解説『秋田と染織技術』
	16:30	秋田県立博物館出発(貸切バス)
	17:00	ホテルハワイ新本店着
	18:30~	懇親会[濱乃家]
		服飾文化学会会長 石山 彰氏 宮本 康男氏

	日 時	内 容
8 月 6 日 (水)	9:00	ホテル出発 (秋田駅より路線バス・タクシー・徒歩)
	9:40	秋田経済法科大学 集合 挨拶
	10:00～11:30	講演『小正月の訪問者・ナマハゲー迎える側の心境ー』
	11:30～13:30	昼食 (大学食堂)
	13:30～15:00	『秋田の漬物の特色について』
	15:30	秋田経済法科大学 出発 (路線バス・徒歩・自由行動)
	18:00～19:00	夕食 [第一会館]
	19:00～	竿灯見学 (会場<山王通り>到着後自由行動)
8 月 7 日 (木)	9:00	ホテル出発 (貸切バス)
	10:00～11:30	銀線細工 (竹谷本店) 見学
	11:30～12:30	竹谷本店出発 (貸切バス) ⇒角館到着
	12:30～13:30	昼食 [百穂苑 (郷土料理)]
	13:30～	角館見学 (徒歩 自由行動) 角館樺細工伝承館 平福記念美術館 石黒家他
	15:00	角館駅着 (解散)

***** 講 読 会 員 *****

東京家政大学図書館

***** お 知 ら せ *****

●次期総会・大会の開催について

平成16年度総会・大会は、下記の予定で開催されます。多数ご参加下さいますよう、お知らせします。詳細は、後日ご通知いたします。

開催校 文化女子大学

期 日 平成16年5月22日(土)・23日(日)

会計報告

① 服飾文化学会 平成 14 年度収支決算報告
(H14. 4. 1~H15. 3. 31)
(単位: 円)

費 目		予 算	決 算	備 考
収 入	会 費 収 入	804,000	798,000	@6,000×130
	入 会 金 収 入	15,000		@3,000× 6
			12,000	@1,000× 11
	年間購読料収入	36,000	36,000	@500× 2
	学会誌掲載料等	400,000	340,600	@3,000× 12
	前年度繰越金 その他の収入	118,765	118,765	23 利子
計		1,373,765	1,305,388	
支 出	経費			
	1)総会運営費	100,000	94,200	
	2)学会誌発行費	750,000	775,244	
	3)通 信 費	50,000	41,735	
	4)印 刷 費	140,000	195,807	会報 4・5 号
	5)事務用品費	10,000	26,586	
	6)会 議 費	50,000	47,805	
	7)交 通 費	10,000	1,520	
	8)雑 費	20,000	600	
	事業費			
	1)事業費 A	30,000	29,500	研究例会
	2)事業費 B	120,000	73,025	論文発表会
広報費	20,000	5,520		
予備費	73,765	0		
次年度繰越金		13,846		
計		1,373,765	1,305,388	

② 特別会計

○夏期セミナー等余剰金	981,890 円
内訳 前年度繰越金	612,787 円
平成 14 年度分	369,033 円
利子	70 円

③ 服飾文化学会 平成 15 年度収支予算
(H15. 4. 1~H16. 3. 31)
(単位: 円)

費 目		予 算 額	前 年 度	備 考
収 入	会 費 収 入	804,000	804,000	
	入 会 金 収 入	15,000	15,000	
	年間購読料収入	36,000	36,000	
	学会誌掲載料等	400,000	400,000	
	その他の収入			
	前年度繰越金	13,846	118,765	
計		1,268,846	1,373,765	
支 出	経費			
	1)総会運営費	100,000	100,000	
	2)学会誌発行費	750,000	750,000	
	3)通 信 費	50,000	50,000	
	4)印 刷 費	140,000	140,000	会報
	5)事務用品費	10,000	10,000	
	6)会 議 費	50,000	50,000	
	7)交 通 費	10,000	10,000	
	8)雑 費	10,000	20,000	
	事業費			
	1)事業費 A	30,000	30,000	研究例会
	2)事業費 B	90,000	120,000	論文発表会
広報費	20,000	20,000		
予備費	8,846	76,765		
計		1,268,846	1,373,765	

*****編集後記*****

日に日に秋色深まり、心地よい季節となりました。会報第 6 号をお届けいたします。本号には、5 月開催の総大会と秋田での夏期セミナーの報告を主として掲載しました。今年度前半期の学会の足跡を確認ください。寄稿いただきました方々のご支援に感謝申し上げます。

現在の会員数は約 180 名とのことです。本学会のますますの発展のために、会員皆様の建設的な声を事務局にお寄せくださいますよう、よろしく願いいたします。(会報編集担当 佐藤)